

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 14 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770001

研究課題名(和文) 東アジア哲学の統合理論へ向けて：現代新儒家と京都学派を中心に

研究課題名(英文) Toward a general theory of East Asian philosophy: The Kyoto School and New Confucianism

研究代表者

朝倉 友海 (Asakura, Tomomi)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30572226

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の推進により、西田幾多郎以来の場所的論理と牟宗三による円教の理論とに共通する理論的枠組みは、形而上学の「存在-場所-論的」構成として規定されるとともに、両者による「意味」をめぐる考察を基点として理解されるということが示された。意味・出来事・事実の関係を追究することから場所的論理と円教の理論が生み出されており、従来「無の存在論」と呼ばれてきたものもまたこのような理論的基盤の上に展開されている。こうした観点によって、東アジア地域で生まれた京都学派と新儒家という二つの現代哲学が総合的に把握されるのである。

研究成果の概要(英文)：This study explored the common metaphysical framework of Nishida's logic of place (basho) and Mou Zongsan's theory of complete doctrine (yuanjiao) as the "onto-topo-logical" constitution of metaphysics by examining how the latter--previously often described as the "metaphysics of nothingness"--results from the investigation into the relation between meaning, event, and fact.

研究分野：哲学

キーワード：京都学派 新儒家 形而上学 存在論 意味論

1. 研究開始当初の背景

(1) 東アジア圏からの「哲学」への貢献として、以前にもまして世界的な関心を集めているのが、京都学派と新儒家である。京都学派の研究は世界的に進められており、それに伴い西田幾多郎のテキストの新しい正確な翻訳も各国語で出版されてきている。一方で、中国語圏における代表的な哲学の学派である現代新儒家(当代新儒家)もまた、中国語圏を超えてその研究が世界的に進展しており、牟宗三のテキストの翻訳出版はもとより、プリル社からの叢書 Modern Chinese Philosophy series に見られるような質の高い研究が進行している。

(2) 両学派をめぐっては、思想史的研究の分野においても、思想を受け継ぐ思想家のあいだにおいても、相互の理論的結合が見られない状況が長らく続いていたが、状況は近年大きく変化しつつある。両学派の研究が言語の壁を超えて世界的に進行するなかで、両学派を総合的に把握することの重要性が、徐々に認識されるようになってきた。林永強(東京大学)や張政遠(香港中文大学)らの活動が特筆されるが、本研究の研究代表者による東アジア哲学研究もこうした状況に少なからず寄与しており、科研費「現代新儒家と京都学派を中心とした東アジア現代哲学比較研究」によって進められた研究は、国内外で両学派の比較研究への関心を促す役割を果たしてきた。

(3) 過去数年にわたり進められてきた両学派の比較研究により、新たな研究の地平が開かれつつある。近年盛んに用いられるようになった「東アジア哲学」という語が示すように、両学派を総合的に見る観点が醸成されてきたのである。より具体的に言うならば、これまでの比較研究から一歩進んで、次の段階として、京都学派と新儒家の哲学を中心として、近代東アジアで展開されてきた哲学を総合的に把握するような観点が求められるようになってきている。

2. 研究の目的

(1) 以上のような研究状況の変化を踏まえ、本研究は、両学派の比較研究からさらに一歩進めて、両学派を哲学的に統合するような理論的基盤の構築を目指しており、次の二つの目標のもとに進められる。

(2) 第一に、京都学派と新儒家が共通にもつ理論的・形而上学的な構造を、主に東アジア仏教史との関係において明確化すること。具体的には、場所的論理を中心とした京都学派に特徴的な思想と、新儒家の牟宗三にみられる独自の「円教論」とが、理論的な同位性を

もつことを、両者の共通の背景としての伝統思想および西洋近代哲学史との関係において明らかにし、両学派の統合的な基盤とすることを目的とするのである。これまでの研究によって明らかになりつつある両学派の共通する形而上学的構成 本研究ではそれを「存在-場所-論的構成」と呼ぶ を哲学的に練り上げることで、両学派を総合的に論じる基盤を構築することが目標となる。

(3) 本研究が達成すべき第二の点は、両学派の「歴史哲学」を統合することにより、狭い意味での形而上学的構成にとどまらず、広く現代における東アジアの社会や文化のあり方を論じることができるような思想基盤を構築することである。言うまでもなく京都学派と新儒家は、形而上学的な議論だけでなく、近代性と東アジア文化のあり方とに関する洞察によって、思想的影響力をもった。西田による「日本文化の問題」や高山岩男の「世界史の哲学」が日本において果たした役割に相当するのが、唐君毅を中心とした「新儒家宣言」や牟宗三による「歴史哲学」の中国語圏における役割である。しかし、これまでのところ、こうした歴史哲学・文化哲学的な側面に関しては、両学派を統合的に論じるような基盤はまったく形成されていない。先に述べた形而上学的構成に関する共通点に基づき、文化や歴史へと視野を広げることがもう一つの目標となる。

3. 研究の方法

(1) 本研究は現在の日本の研究体制においてはもちろんのこと、世界的な研究情勢においても、根本的に学際的な意義をもつ。研究課題が、既存の研究体制を超えて現代哲学の世界的動向に様々な仕方で関わっているため、思いがけない仕方で他分野の研究者との学術的交流が研究成果に結びつくことが多いと考えられる。そのため、分野を超えて多くの研究者との交流や協力を進めていくことが、研究の強力な方法となる。

(2) 本研究の研究目的を遂行するにあたり、研究代表者はさまざまな領域の哲学研究者たちとともに研究会・国際会議を開催することにより、京都学派哲学および現代新儒家思想における諸問題の検討と解明を行う。具体的には、牟宗三の直接の薫陶を受けた世代の学者との交流の他に、つぎのような研究者との協力が重要となる。中国語圏で西田研究をリードする黄文宏(台湾・精華大学)、新儒家と京都学派をともに視野に入れて仏教研究や哲学研究を行っている林鎮国(台湾・政治大学)や黄冠閔(台湾・中央研究院)。また、哲学的な天台仏教研究を強力に推し進めているブルック・ジボリン(シカゴ大学)や仏教的観点から新儒家研究を進めるジェイ

ソン・クロウアー(カリフォルニア州立大学)比較哲学の立場から西田研究を進めている
ゲレオン・コプフ(ルター大学)やジョン・
クルンメル(ホバート・アンド・ウィリアム
スミスカレッジ)ら北米の研究者との交流を
通して、両学派の総合的把握を進める。

4. 研究成果

(1) 本研究の推進により明らかとなったのは、西田幾多郎の場所の理論と牟宗三の円教の理論に共通するところの形而上学の「存在-場所-論的構成」が、意味と出来事の考察に基づくことが示された。場所的論理と円教の理論を生み出したのは、意味・出来事・事実の関係をめぐる考察であり、いわゆる無の存在論と呼ばれてきたものもまたこのような理論的基盤の上に展開されていることが、本研究により明らかとなった。言い換えれば、仏教的伝統としての出来事をめぐる考察が、意味と存在をめぐる理論と結びつくところに、両学派の基本的な枠組みが成立しているのである。

(2) 以上の研究成果は、当初の計画ではまったく予見できないものであった。当初の予定は、「存在-場所-論的構成」の解明によって歴史哲学の意義を明らかにすることができるという見通しによるものであった。しかし、後者と深く関係する人格性の理論を、様々な研究交流の中で検討した結果として、逆に「存在-場所-論的構成」をもたらしめたのが意味・出来事・事実の関係をめぐる考察であることが次第に明らかとなってきたのである。これにより、両学派の共通基盤となるのは、哲学的にはいわゆる言語論的転回と軌を一にするものであることが明確になるとともに、牟宗三による言語哲学への取り組みや山内得立による西田批判の意義が、新たに見出されることとなった。

(3) 本研究活動により、「研究の方法」に挙げた以外にも国内外の多数の研究者との研究交流が実現し、「東アジア哲学」の研究体制が以前よりも格段に整備されてきた。また、研究代表者による成果発表に関して言えば、初年度に単行本(『東アジアに哲学はない』のか：京都学派と新儒家)を刊行したことをはじめ各国語での分担執筆や論文掲載を行い、東アジア地域を中心に各国で学会発表を行うなど、海外へも広く上記の研究成果を公開した。それにより、東アジア哲学の包括的研究を促進することに少なからず貢献することができたと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6件)

朝倉友海、「從"即"的概念探詢"差異性": 以西田幾多郎与牟宗三的思想比較為切入点」、『學術月刊』、48(3): 13-20、2016年3月、査読有

朝倉友海、「西田哲学と天台仏教: 東アジア哲学の観点から」、『西田哲学会年報』、12: 151-165、2015年7月20日、査読有

ASAKURA Tomomi, "Theory of personhood in Nishida Kitarō and Mou Zongsan: Reflections on Critical Buddhism's view of the Kyoto school," *Taiwan Journal of East Asian Studies*, 12(1): 41-63, June 2015. 査読有

朝倉友海、「東アジア哲学の包括的研究へ向けて」、『哲学年報』(北海道哲学会)、60: 1-20、2015年2月15日、査読有

ASAKURA Tomomi, "Philosophy of doctrinal classification: Kōyama Iwao and Mou Zongsan," *Dao: A Journal of Comparative Philosophy*, 13(4): 453-468, November 21, 2014. 査読有

ASAKURA Tomomi, "Basho and yuanjiao," *APF Series 2: Life, Existence and Ethics*, 103-111, May 7, 2014. 査読無

〔学会発表〕(計 8件)

朝倉友海、「呼応性と意味の論理」, 近代日本哲学与東亜、国立台湾大学(台湾)、2016年11月5日

朝倉友海、「意味の観点からみた渦」, 渦の特徴付け、北海道大学、2016年7月26日

ASAKURA Tomomi, "The ethical motive for the critique of philosophy in modern Japan," Reception of Western Philosophy and Reconstruction of 'Ethics' in East Asia (The Korean Society of Ethics), Seoul National University, June 24, 2016.

ASAKURA Tomomi, "The Onto-topological Constitution of Metaphysics in Nishida Kitarō and Mou Zongsan," International Society for Chinese Philosophy, Chinese University of Hong Kong, July 22, 2015.

ASAKURA Tomomi, "The Notion of Difference in terms of Ji/ Soku," 現代性語境中的翻譯与詮釈、復旦大学(中国)、2015年5月24日

ASAKURA Tomomi, "The Theory of Difference in East Asia: Nishida Kitaro and Mou Zongsan," 東亞哲學的終極真理、中央研究院(台湾)、2014年9月4日

朝倉友海、「存在論的観点からみた渦」, 渦の特徴づけ、北海道大学、2014年7

月 28 日

ASAKURA Tomomi, “The Onto-topological Constitution of Metaphysics,” 西田哲学会、西田幾多郎記念哲学館、2014 年 7 月 19 日

〔図書〕(計 5 件)

上野修・米虫正巳・近藤和敬(編)『主体の論理・概念の倫理 二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義』、以文社、2017 年 2 月 27 日、488(343-364)頁

蔡振豊、林永強、張政遠(編)『東亞傳統與現代哲學中的自我與個人』、國立臺灣大學出版中心、2015 年 12 月、269(151-172)頁

李瑞全、楊祖漢(主編)『二十一世紀當代儒學論文集 1：儒學之國際展望』、中央大學儒學研究中心、2015 年 6 月、804(783-798)頁

河出書房新社(編)『「論語」入門：古いからこそいつも新しい思想』、河出書房新社、2015 年 1 月 20 日、254(116-125)頁

朝倉友海、『「東アジアに哲学はない」のか：京都学派と新儒家』、岩波書店、2014 年 6 月 19 日、全 266 頁

〔産業財産権〕

なし。

〔その他〕

なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝倉 友海 (Asakura, Tomomi)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：3 0 5 7 2 2 2 6

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし